正しく表示されない場合は、ブラウザで表示させてください。

ICRC

赤十字国際委員会 ニュースレター

特集号



＼ パラリンピック特集 ／

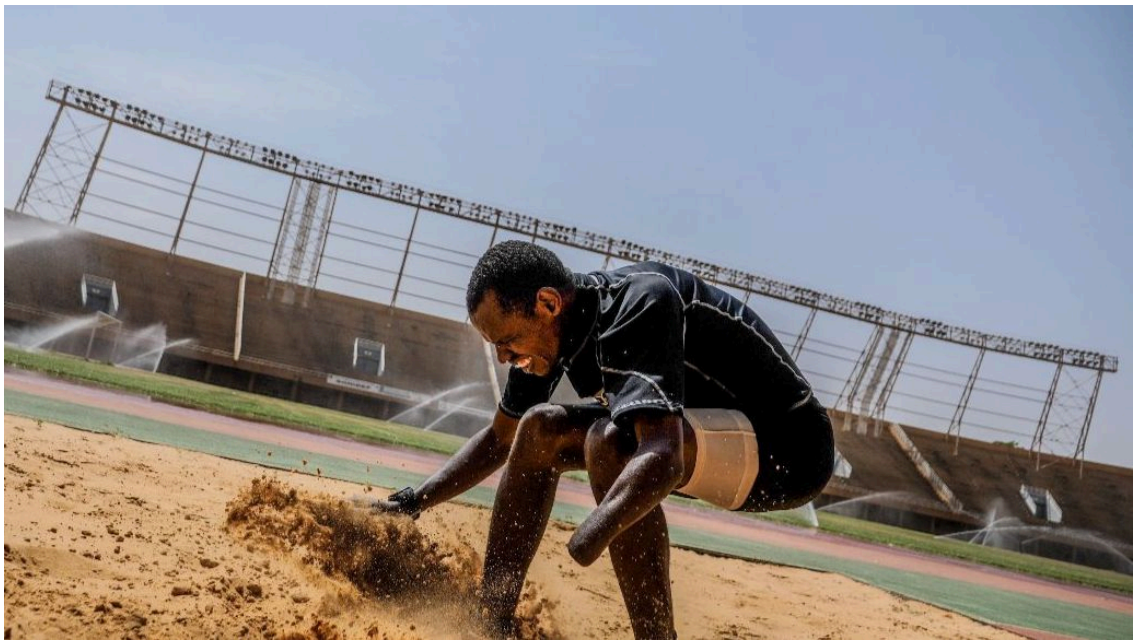
８月24日、東京2020パラリンピックがついに開幕しました。22競技、537種目に計4,400人が参加する本大会では、赤十字国際委員会（ICRC）が支援する選手も出場します。今回のニュースレターは特集号とし、ICRCが支援するパラアスリートや、リハビリテーション事業、そしてソーシャルインクルージョンにも焦点を当てて、それぞれのストーリーを紹介します。



日本人監督によるドキュメンタリー 「さぁ、動こう！」が８月25日公開

ンピックを視野に2019年末にパキスタンで取材したドキュメンタリー「さぁ、動こう！」。自らの過去や障がいを受け入れて乗り越えようとしている人々、そして、障がい者の声に耳を傾けて社会の主流派に加えていくための民間の取り組みに光を当てました。パラリンピック開幕を受けて、８月25日より「ブリリア ショートショートシアター オンライン」で、 11月10日までの約３カ月間上映します。

石川さんの作品「さぁ、動こう！」の視聴はこちら



ICRCが支援する障がい者がスポーツ参画する機会も近年は増えてきていて、2020年には27カ国において1,300を超える障がい者スポーツ事業を展開しています。しかし、私たちの活動地は紛争の影響を少なからず受けているため、練習場所や練習の機会などが制限されるケースも多く、国際的なレベルの大会で国を代表して闘う選手は、まだわずかです。

そんな中、アフリカのニジェールから、100m走と幅跳びでパラリンピックに出場するため来日したのが、イブラヒム・ダヤボー（Ibrahim Dayabou）です。 夢は、“ニジェールのウサイン・ボルトになること”と語るダヤボーは、前回のリオ同様、二大会連続でニジェール選手団の旗手を務めます。



詳しくはこちら



アフガニスタンで障がい者に寄り添う伝説のイタリア人理学療法士：夢にまで見たこの仕事はまだ手放せない！と語る69歳

30年以上前の1990年に母国のイタリアを離れ、理学療法士としてカブールでの任務についたアルベルト・カイロ。以来、ライフワークとしてICRCの障がい者リハビリ事業に取り組み、現在の形にまで発展させました。アフガニスタンにおける課題や取り組み、仕事への情熱をカイロに聞きました。

詳しくはこちら



Webby Awards 2020で最優秀スポーツ作品賞を受賞
「NO LIMITS」

2020年、2021年と二年連続で国際短編映画祭「ショートショート フィルムフェスティバル & アジア」で上映された「NO LIMITS ～南スーダン車いすバスケットボールチーム」も、この機会に是非皆さんにご覧いただきたい一本です。久しぶりに母国の南スーダンに帰り、発足して間もない車いすバスケットボールチームを指導するマラット・ウェイと、ICRCの障がい者スポーツ／ソーシャルインクルージョン事業を支えるジェス・マークトの物語です。

「NO LIMITS」の視聴はこちら



ICRCと身体リハビリテーション事業

す。また、障がい者に対しては支援・保護に加えて、身体能力向上のためのリハビリテーションやソーシャルインクルージョンの側面からもサポートしています。

詳しくはこちら

駐日代表部だより



参加者募集：国際人道法模擬裁判およびロールプレイ大会

ICRC駐日代表部は、2021年国際人道法模擬裁判を11月27日（予選）、12月12日（準決勝・決勝）、ロールプレイ大会国内予選を11月28日に開催します。日本国内の大学および大学院（修士課程）に在籍する方であれば、どなたでも参加可能です。いずれも締め切りは９月24日（金）です。奮ってご参加下さい。

詳しくはこちら

その他のニュースはこちら

配信停止をご希望の方は、お手数ですがこちらよりお手続きください。
ICRC駐日代表部のプライバシーポリシーはこちらでご確認できます。

